

# 総決起

## 今日の沈黙・屈服は明日の戦争

### 国鉄労働者の総決起こそが、この流れを変える力だ！

政府・空港公団は、タイムリミットに迫りつめられ、今年度二期強行着工へ向けた本格的攻撃を開始している。「戦後政治の総決算」を呼号する日帝・中曽根は、三里塚・国鉄・教育を突破口に労働者・人民をうむを言わせず戦争へ引きづりこもうとしている。三里塚・国鉄を軸に日帝・中曽根の戦争政治を阻止するのにか否かの決戦が到来している。「3・25」三度の五割動員の地平を引き継ぎ、5・26決戦の三里塚へ総決起しよう。

#### 政府・空港公団の危機にかられた「二期工事」必要論の大ペテンを粉碎しよう！

政府は4月5日、国会において22億円の二期工事予算を成立させた。4月7日には、各商業新聞に「成田はいま」なる「政府公報」を大きく掲載し、①成田空港は近い将来パンク、②反対派農民は少数、③豊かな地域づくり等と書きつらね「二期工事完成まで5年かかるので今年がタイムリミット」と事実上の二期着工宣言を行った。

同じ日の新聞紙上では、千葉県土地収用委員会が年内にも団結小屋の強制収用を準備していることが暴露されるなど二期本格着工へ激しくふみこんできている。

さらに、空港公団総裁秋富の「二期工事は一度着工したら休むことなしにやる」との強行発言をうけ、二期工事資材道路・警備道路の建設準備が進み、その警備のための機動隊宿舎の建設も始まろうとしている。一方、石橋（敷地内脱落派・前副委員長）のグループを使い、反対同盟解体を狙った代替地の造成攻撃、敷地内外の分断を策す成田用水の辺田・中郷地区への拡大策動、そして東峰十字路裁判における三君への重罪求刑（三里塚に住み、空港に反対していることが罪という超反動求刑）等、反対同盟破壊・孤立化の攻撃も激化している。まさに情勢は風雲急を告げている。今日、既成の政党や勢力がおしなべて中曽根の戦争攻撃に屈服し、その先兵となる中で、これと真向から対決し、不屈・非妥協・実力闘争を貫く三里塚闘争こそ中曽根と対決する労働者・人民の闘いの指針であり、戦争政治に勝利する道である。

#### 「戦争政治」へ埋没する中曽根体制を打倒しよう！

「戦後政治の総決算」を叫ぶ中曽根は、本年早「今年に国鉄と教育をやる」と宣言した。中曽根の「戦後総決算」の内容とは、第一に軍事大國

化である。第二に行政・財政・教育の「三大改革」とおした戦後の権利や民主主義的制度的解体をもつてする戦争体制づくりである。第三に、教育改革・天皇制イデオロギーの鼓吹など、民主主義的なものの考え方自体の変革に完全に競争原理の導入、国家主義（企業主義）、差別・排外主義のおしつけであり、第四に、この国家改造計画をマスコミをテコに「国民の総意」のごとく進めるファシスト的やり方である。

国鉄攻撃は、その典型である。資本の矛盾を労働者の「たるみ」「組合運動」のせいであるかのごとく宣伝し「社会の敵」を計画的につくりあげ、袋ダタキにし、結局労働運動をつぶし、権利を否定するやり方である。

#### 全労働者に犠牲を強いる中曽根の先兵を粉碎・一掃し、5・26総決起へ

動労「本部」革マルのごとく情勢が厳しいからとこれに屈服すれば闘う基盤そのものがうばわれ抵抗もできない、権利も主張できない状態に追いこまれ、ついには国家主義にまきこまれ、戦争へと動員されてしまう。

われわれは、このファシスト的攻撃をしっかりと見すえ、このような全労働者の敵として登場している動労「本部」革マルを断固として粉碎・一掃しなければならぬ。中曽根の戦争国家づくり攻撃と真向から対決しているものこそ三里塚であり、未だ総屈服を拒否している国鉄である。そうであるがゆえに中曽根は、三里塚・国鉄を攻撃の軸にすえている。

85年決戦は、三里塚と国鉄を舞台に中曽根の戦争攻撃に屈服するの阻止するののかのかかった闘いである。「過員対策」強行イマル生的組織破壊策す当局と対決し、5・26三里塚闘争へ総決起しよう。

### 成田運転区10時集合

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！